世界平和統一家庭連合（統一教）[1]の
天宙清平祈祷苑（清平祈祷院）と日本人信者
―日本の宗教文化の影響を中心に―

古田　富建

1. 統一教と清平祈祷院の教義の変容：『原理講論』との比較を中心に

統一教は 1952 年に文鮮明（1920-2012）によって韓国で創設された。キリスト教系新宗教教団であるが，宗教活動に留まらず政治・経済・教育・学術・文化方面等においても世界規模で活動を展開しており，韓国社会で一定の影響力を誇示している[2]。

植民地解放直後，韓国では 170 程度[3]の新宗教団体が発生した。これらの教団の教説には，シンクレティズムやメシアニズムが共通して見られ，社会・政治変革，神癒や霊的な交流，国家や宗教の統一を重視する傾向があると指摘されている[4]。その代表格の一つともいえるのが統一教である。また 70 年代の朴正熙軍事独裁体制下では，反共産主義思想である「勝共思想」を大々的に掲げて政府に庇護された。

その一方で 70 年代頃から韓国の既存キリスト教会との「対話集会[5]」，教義公聴会などを開催し，キリスト教会に和解を求めたが，教会側は統一教を「異端」と呼び，組織的な反統一教運動[6]，バッシング運動[7]を展開し続け，現在に至っている[8]。公称信者数は韓国で 30 万，日本で 60 万だが，実際の信徒数は全世界で 10 万にも満たない程度である。しかし同時期に創設された韓国の新宗教の中では，海外宣教の活動実績が群を抜いており，特に日本で大きく成功した。

日本では，64 年に宗教法人として認可されて以降，信者数を伸ばし続け，現在は発祥の地韓国を抜き統一教信者数世界最多国となっている。拡大のきっかけは 66 年に全国大学原理研究会（現 CARP）を設立し，60 年代後半には反共産主義政治運動結社である「国際勝共連合」を創設，自民党保守系議員の庇護下で教勢を拡大させていった。80 年代からは海外宣教活動支援と教団関連事業拡大のため会社組織が作られ，必要な財源を確保するようになった。韓国から輸入した高麗人参や高麗大理石の壷などの訪問販売が主な手法だったが，90 年代に入って姓名判断や印相鑑定と絡めた販売方法が「霊感商法」であると批判されるようになり，偽名勧誘，マインドコントロール問題，合同結婚式への強制参加などと併せて社会問題として取り上げられるようになる。

日本国内でのバッシングが活発化する以前の統一教では，『原理講論』が教義の中核にあった。この教義書は 66 年に刊行されたもので，旧約・新約聖書を再解釈したものである。構成は大きく「創造原理」「堕落論」「復帰原理」の 3 つに分かれる。「創造原理」には，神の存在，宇宙の創造，霊界，神の作った人間の創造目的について主に書かれている。「堕落論」には，悪の存在，人間の堕落の起源が記されており，堕落とは人間始祖の誤った性行為であると規定している。「復帰原理」には，人間の堕落直後から現在に至るまでの神の人類に対する救済摂理史が描かれている。イエ

ス以降の「人類 2000 年史」（文芸復興，産業革命，第一次，第二次世界大戦など）をそれなりの整合性と体系性をもって説明し，人類の歴史を神とサタンの闘争史という「一つの物語」として再構築している。いわばキリスト教徒向けに書かれた統一教の組織神学，歴史神学書というスタンスであった。

ところが，90 年代から『原理講論』の教義のウェイトが徐々に下がり始め，教祖の言葉を収録した『み言葉選集』(9)を主題別に編纂した書籍が次々と出版され始める。03 年には『み言葉選集』の特に重要な箇所を編集・選別したとされる『天聖経』が発刊され，これを毎朝訓読することが奨励された。フォーマルな教義書が『原理講論』から『天聖教』にシフトしたと見ることができよう。

『天聖経』の特異な点は，内容の 56.4%を占める(10)という霊界に関する記述の多さである。このことについて姜敦求は「80 年代以降の教勢鈍化にともない，解決方法として霊界に着目したのではないか」(11)と指摘している。

また，櫻井が「90 年代からの統一教は民族主義を強く打ち出した」(12)と指摘しているように，90 年代後半から清平祈祷院（後に詳述）において，従軍慰安婦や強制連行など日本の戦争犯罪や歴史認識に対して日本信徒に痛烈な悔い改めを求めるようになった。

70～80 年代には「勝共思想」を掲げ，無神論を主張する同族の共産国家の北朝鮮とその指導者である金日成を怨讐と称し痛烈に批判して，日本の政治的右派と同調していたが，90 年の文自らの北朝鮮電撃訪問と金日成主席との面会を皮切りに立場を 180 度転換させ，北朝鮮との経済的な結びつきを強めながら「民族的な和解と統一」を訴えるようになる。こうした「親北朝鮮」的な活動と同時に日本批判ともとれる言説が登場し始め，「反共産主義」という命題のもと冷戦時代に関係を深めた日本の保守派マスコミや政治家との関係が疎遠になっていった。

上記のような教義の変容の中で，教団内で存在感を増していった施設が清平祈祷院(13)である。清平祈祷院はソウルより北東に 40km 離れた外郭都市である京畿道加平郡清平に位置する。教団内では「霊界の関門」「復帰されたエデンの園」とも呼ばれ，数ある教団施設内でも，ここ 10 数年間で特別な場所に成長した。「清平修練所」から「清平祈祷院（1994～2000）」，「天宙清平祈祷苑（2000～）」といった名称の格上げからも，教団内での地位や重要度が徐々に増大していった様子が分かる。

韓国プロテスタントでは通常，クリスチャンではない祖先やクリスチャンでない死者を救いの対象から排除する。しかし清平祈祷院では霊界を前面に出して信徒ではない死者を積極的に救おうとする。このような現象を指して櫻井は，統一教はキリスト教の枠から抜け出し「伝統宗教へ回帰」した(14)と指摘している。

本研究は 2000 年代以降に統一教の中で存在感を増してきた清平祈祷院の宗教儀礼が日本の宗教文化（日本の新宗教）の影響を受けていた実態について考察したものである。清平祈祷院については神学的な先行研究(15)が多く，宗教学的な研究としては姜敦求や櫻井・中西の研究(16)がある。統一教における日本人信徒の実態については前述した櫻井・中西の研究に詳しく，その中で清平祈祷院についても述べられている。

後述するように統一教と関係のある日本の新宗教教団の関係とは主に天運教／天地正教を指す

が，これらの研究分野では 1990 年代に Thomas と櫻井[17]が先行研究を残している。90 年代の研究はまだ清平祈祷院が教団内での地位を獲得する前の時期のものであり，本研究は先行研究の後続研究として，統一教の中でも主に清平祈祷院と天地正教について主に儀礼面を中心に述べる。

2. 清平祈祷院の役事（儀礼）と日本人信徒

清平祈祷院が教団の聖地に定められたのは 71 年のことである。当初は「清平修練所」と呼ばれ，全国から信者を集めて修練を行う集会所に過ぎなかった。「世界的な教育施設と文化村を清平に作る」[18]という教祖の指示のもと，90 年代半ばから本格的な開発が始まり，一気に存在感を大きくしていった。99 年に完成した巨大施設である天城旺臨宮殿は祈祷院の中心に位置し，信者が泊りがけで行うイベントや儀礼に用いられている。清心神学大学院や天正宮博物館，温泉浴場など信者向けの付属施設のほか，清心国際病院，清心国際中学高校，清心平和ワールドセンターなど外部者が利用できる施設も備えている。中学高校は韓国有数の進学校として人気が高く，ワールドセンターは 25,000 人を収容できる国内最大の複合文化施設として，イベントや公演等に利用されている。

清平祈祷院では毎週末 2 泊 3 日の集会を開催している。95 年に開始し，10 年には 1,200 回を数えた。集会で際立つのは，参加者に日本人信徒が多いことである。進行こそ韓国語だが，参与観察のため修練会に参加した研究者やジャーナリストは，「日本にいると錯覚するほど」だと証言している[19]。

集会の主たる任務は，信者の信仰生活を悔い改めさせ，霊的な問題を解消することである。信者を貧困や病気などの不幸に追いやる霊，または信者の先祖を何代にも遡って解怨し，信者の霊的治癒を行う行為を「役事[20]」と呼んでいる。

> 食口たちの体中には霊がたくさんいます。それらの霊は食口たちの先祖と関連のある霊たちであり，恨みが多いのです。それで暇さえあれば食口を悪い方向に連れて行こうとしているのです。そういう霊が食口たちの体中に蟻の卵のように，また砂のように積まれているのです。それこそフォーククレーンで掘り起こすかのように霊を分立してあげたいと切実に思うのです。その霊を掘り起こさなければ，食口たちが生きていくのに困難が伴うのは当然のことです。自分の本性とは違った生き方をしなければならないので，天国にも行けない姿になるのです。また，近くにいる食口たちが若くして病気で死亡したり，いろいろな形の事故が起こることがありますが，これらの原因の大部分が恨みの多い「悪霊の役事」なのです。それで食口たちはもちろん，世の中のすべての人々が清平を訪れて修練を受け，霊を分立することによって神様が願う天国人の姿に変わっていかなければなりません。[21]

信者が苦しみから解放されるためには，信者の体に入り込む「恨みを抱く霊（以降，「恨霊」と呼ぶ)」を「分立」しなければならないとしている。「分立」とは信者から霊を切り離すこと，除霊を意味する。

除霊といえば，韓国の民俗宗教である巫俗に触れないわけにはいかない。巫俗では，患者を苦

しめるのは患者に憑依する鬼神であると説明する。渕上によれば，鬼神となるのはもっぱら患者と既知の関係の人物か親族[22]で，患者自身に恨みを抱いているという。ところが，清平祈祷院で除霊の対象となっている「恨霊」は，患者自身ではなく，患者の先祖に恨みを抱く霊であると説明される。例えば，日本が大陸を侵略する際に犠牲となった韓国人の被害者（従軍慰安婦や強制連行で死んでいった者）が「恨霊」となって加害者の体内に入り苦しめ，その加害者が死ぬと，今度はその子孫に憑りつくというのである。さらに植民地時代に強制連行された青年や慰安婦の霊は，韓国の民俗宗教の世界観からすると客死者，あるいは結婚できずに死んでいった独身男女のカテゴリーに属し，「恨霊」の中でも極めて恐ろしい部類に位置づけられる。それを物語るかのように，集会では慰安婦の霊については怨念の胸の内が詳細に語られ，日本人信者は「恨霊」に殺されようとしているなどの恐怖心を植え付けるとともに，信徒たちに悔い改めを促している[23]。

清平祈祷院における教説は日本人を対象に 93 年から 95 年にかけては日本人に恨みを持つ従軍慰安婦や強制連行の「恨霊」の解怨という反日的な要素が強くみられたが，その後 95 年ごろからは災因論的な先祖の解怨へとシフトしていく。

しかし韓国よりも日本の信者数のほうが多い教団の中で，このような反日的な言説が叫ばれ，それを日本人が受けとめていることをどう解釈したらいいのか。難解な問題だが，ここに教義の変容とも関わる重要な手がかりがある。

最大のポイントは，『原理講論』の主役が韓国人＝選民だったのに対して，清平祈祷院の主役は日本人だということである。韓国の民族宗教ともいえる統一教は，80 年代になると日本に基盤を作り，信徒数や資金面において韓国を凌駕するようになっていく。統一教は世界 160 カ国に宣教師を送り込んでいるが，自立運営できている国，つまり実質的に宣教に成功した国といえば日本ぐらいである。日本への依存度が高まるにつれて，教義が日本人信徒向けにカスタマイズされてもおかしくない。

『原理講論』では聖書や世界史の中の事象を取り上げていたのに対し，清平祈祷院では日韓の歴史認識問題の中で急浮上した従軍慰安婦や強制連行問題などタイムリーな問題を取り上げている。また『原理講論』では「神の解放」が叫ばれたが，清平祈祷院では「神の解放」が完了したとして「人類の解放」，中でも「霊人の解放」を取り上げ，霊人の中でもまず「日本人に虐げられた選民である韓国人の解放」を行おうとした。「摂理」を進める際には「善の側」と対立する「悪の側」を必ず示しているが，『原理講論』では「対サタン」であったのに対して，清平祈祷院の「悪の側」は「選民を迫害した民族」，まさに日本ということになる。日本人が主役となって「対日本の摂理」を進めた結果，自虐的な構造が出来上がってしまったのである。

日本人信者が自虐的な言説を受け入れた背景には，90 年代後半がまさに，日本社会において従軍慰安婦問題や日本の過去の戦争に対する歴史認識問題がクローズアップされた時期であったことも大きく影響しているだろう。さらに，日本人信者はメシアが生まれた韓国や韓国文化を好む親韓的集団であり，自虐的といえるほどの自己犠牲を求める教団文化も寄与していると推測できる。また，櫻井は祟り信仰や儒教に裏打ちされた血統信仰は東アジア共通の民俗宗教であるため，日本人にとってリアリティーと説得力があったと述べている[24]。

統一教では死とは肉体を脱いで神の元に還ることを指し，死後，人間は霊界で永世すると考え

られている。しかし原罪を清算するための儀礼である祝福結婚を受けずに死んだ者は全員地獄に行くため，信者の先祖の多くは地獄にいることになっている。統一教では教義上，死者と生者は自由に交流することができるとしており[25]，地獄にいる先祖は自分たちを解怨し天国に連れていってほしいと切望し，子孫に働きかけるために病気や事故，家庭不和を起こして苦しめる[27]。死者は肉体のある子孫の追善供養によってしか救済がされないからである。そこで統一教の信者に降りかかる災難は，すべて先祖の犯した罪によりとり憑いた「恨霊」および「恨霊化した先祖」の仕業へと還元され，それらの恨みを解いて（解怨して）善霊にして天国に送ることが清平祈祷院の儀礼の主目的となっている。「恨霊」を善霊に変えるため儀礼は下記の様に整備されていった。

①熱い賛美と按手による恨霊の解怨／先祖解怨式
②霊界 100 日修練会
③祝福式
④霊人の祝福 40 日修練会
⑤全体善霊降臨伝授式

まず「恨霊」は信者の体から抜け出て霊界で行われている修練会に参加し，メシアより原罪の贖いを受けて選ばれたパートナーと結婚する「祝福結婚」儀礼に参加する。霊人（死者）に対して行われる「祝福結婚」儀式の中身は，「聖酒式」「聖水儀式」など生者に行われる儀礼と同様のものである。「祝福結婚」儀礼を経ると，霊は生きた信者に良い働きかけをするようになる。例えば信者の体内で病気などを引き起こしている他の「恨霊」を信者から引き離し，伝道して霊界にある修練所に送ってくれるのだという。

95 年の「修練会」開始当初は，上記に挙げたような従軍慰安婦や強制連行された霊に始まる「恨霊」の救いが強調されていたが，次第に強調されるポイントが変化したことがうかがえる。清平祈祷院発行の「体験集[27]」を見ると，アトピーの苦痛からの解放，網膜色素変性症などの難病が治った体験談などが多数寄せられており，信者自身の治病，身の回りの問題解決に焦点がシフトしているのである。一人の人間としての悩み，病や貧困をどうすれば解消できるのかを追求する，東アジアに根差すこのような現世利益的志向は，90 年代まで教義の核心であった『原理講論』と大きな隔たりを感じざるを得ない。『原理講論』に見られる，神と人類の解放という「大きな物語」のための禁欲的な自己犠牲，歴史的な宿命を背負った使命感，それに伴う悲壮感といったものが，清平祈祷院からは感じられない。

強調されるポイントの変化に伴い，03 年にはそれまでの清平祈祷院で行われていた「先祖解怨式」に加えて，「還元祈願聖火式」という儀礼が始まった。儀式前には，信者に「還元祈祷祈願書」が配布される。「還元祈祷祈願書」は神に直接届く通信文とされ，間接的には霊界にいる悲惨な先祖を慰労する追善供養にあたる。前述したとおり統一教では死者は霊界で苦痛を受けて，先祖は自分たちを救ってほしいため子孫に対して負の働きかけをして苦しめるが，これは墓の位置（陰宅）が悪いと子孫に災いを起こす風水思想を彷彿させる世界観である。しかし「還元祈祷祈願書」に先祖の名前を書けば，先祖への解怨が約束されて先祖が災いの手を緩め，信者の家庭不和や病

苦の回復，諸願成就といった現世利益が得られるという[28]。これら「祈願書」を集めて燃やすことで神に届ける儀式が「還元祈願聖火式」であり，毎年 5 月頃に執り行われている。

「還元祈願聖火式」は教祖である文の指示により開始したもので，火による浄化の儀礼は過去の罪悪を消滅させるものであり，それは聖書にルーツがあると教団は説明している[29]。しかしそのルーツは 80 年代の日本にあると筆者は見ている。弥勒菩薩を信仰する仏教系の新宗教「天地正教」の儀礼がそれである。

「天地正教」は川瀬カヨ（1911-1994）によって作られたとされる教団であるが，その背後では統一教の資源（教義・組織・運営方法・資本等）」[30]が導入され短期間に発展した教団である。

川瀬は 33 歳の時に結核を病み，神仏の加護を願って各地に参拝し，このころから霊動と手かざしによる病気直しの力が現れる。その後世界救世教や，生長の家などの宗教団体を遍歴した。44 歳の時に真言密教の行者と出会ってから「お告げ」が下りはじめ，「天運教の教祖となれ」という啓示を受ける。神社や霊山での荒行を続けている中で病気直しを求める信者が集まり始め，帯広一帯では著名な霊能者となっていくが，その間経済的な繁栄と没落を経験し，夫とも死別している。

櫻井が指摘している通り，川瀬がシャーマン的霊能者になる経緯には日本における新宗教の女性教祖に典型的な，苦難の半生と更年期の神憑り体験，教団の遍歴による宗教観，儀礼の確立，修行による霊威の強化などがみられる[31]。

川瀬が 62 歳の時に転機が訪れる。統一教が積極的に活動をしていた高麗大理石壺の販売，いわゆる霊感商法に積極的に関りを持ち，統一教の教義に感化され信者となるのである。そのころから教団の祭壇に高麗大理石の壺が並ぶようになる。

川瀬は「おさとし」という啓示や先祖供養などを中心とした民俗宗教レベルの霊威や儀礼などを主な活動としていた一地方の霊能者（もしくは小規模教団の教祖）であった。しかし統一教との接触から教義に突如，世直しを志向するメシア思想としての弥勒信仰が混入し，教団名を天地正教に改名して 1 年で全国規模の組織を持つようになる。組織拡大のため統一教の信徒がダミー信者となった。そして川瀬は最終的に，弥勒菩薩は統一教の教祖である文鮮明だと宣言するに至る[32]。「天地正教」はよく言えば統一教の日本宗教文化への土着化もしくは習合ともいえるが，悪くいえば統一教の資金稼ぎのための日本人向けの仏教粉飾教団といえるであろう。

天地正教では川瀬カヨにより先祖供養と信者の諸願成就のために制定された儀礼として年に一度「浄火祈願祭」という行事が執り行われており，これは弥勒祭と並んで教団の二大イベントの一つであった。89 年に北海道に 700 人の信徒を集めて 24 万本の護摩を焚いて，水子供養や先祖供養仏教の聖人などに祈願をしたのが始まりである。川瀬は護摩焚きで有名な密教系教派の真言宗の開祖空海を教団の重要人物に取り上げているだけでなく，前述したように日本の多くの新宗教を渡り歩き，教義を学んでいる[33]。

この「浄火祈願祭」が実に，清平祈祷院で執り行われている「還元祈願聖火式」と酷似している。当時の「天地正教」の儀礼に参加したことのある統一教の信者は，流される音楽までが同じで，「還元祈願聖火式」は「浄火祈願祭」とそっくりだと証言している[34]。

火による浄化は，韓国のシャーマニズム[35]や韓国仏教にも護摩焚きが見られないわけではないが然程一般的ではなく，これは日本の宗教，特に仏教で広く見られる現象である。山岳民間信仰

と仏教とが結びついた修験道では罪や穢れを聖火で焼き清めているし，8 世紀ごろ伝来した仏教教派の密教では諸願成就や除霊息災のために護摩焚きを盛んに行ってきた。また 70 年代に発生した密教系新宗教である阿含宗においても，天地正教の「浄化祈願祭」と似た「星まつり」という儀礼を行っている(36)。

03 年以降，統一教は 90 年代に日本向けの布教のツールとして作り上げた教団の中に存在していた儀礼を踏襲し，日本信者向けにその教義や儀礼を積極的に教団内に取り入れ，カスタマイズしている。そしてその儀礼や教義は仏教の伝統が日本の宗教文化を考慮して，日本の仏教系新宗教の儀礼を吸収していたことを指摘しておきたい。

3. まとめ

清平祈祷院が教団の中心施設にシフトしていく中で，大きく 3 つの変化をたどることを確認した。1 つ目は，「普遍的なキリスト教」から「民族宗教」への変化である。このことにより親北朝鮮あるいは反日的言説が登場するようになり，日本ではもともと保守右派の教団であったが，教義と政治路線との間にギャップが生じてしまい，信者に混乱をもたらしている。また，韓国の巫俗や日本の仏教を教義や儀式の中に取り入れたことにより，韓国のキリスト教会にとってみれば，もはや「異端」でもなく「異教」となったといえよう。

2 つ目は，神の国を立てるという目的から政治運動や経済活動など「現実改革運動」を活発に行ってきたが，霊界が強調されるにしたがって，シャーマニズム的な除霊あるいは先祖祭祀的儀式が重要視されるようになってきた。3 つ目は，自己犠牲を基礎とする世界救済という「大きな物語」から，家族を重視し現世利益を求めるようになる。これは日本の新宗教を通じて「生活宗教」の要素が混入したとも言い換えることができるであろう。

清平祈祷院の日本信者への依存度は極めて高い。そもそも最初の「役事」は三人の日本信者の怨霊の「分立」からといわれ，90 年代から 2000 年代初頭にかけて，日本人の修練会はその他の国籍の信者よりも優先的に実施されている(37)。日本人が多く参加する修練会のために日本信者を強く意識した儀礼が取り入れられたのは「護摩焚き」に似た「還元祈願聖火式」などの行事を見ても明らかである。日本の新宗教の特徴である個人の暮らしの改善（「貧」「病」「闘」の克服）を目的とした清平祈祷院の集会は，「生活宗教」の伝統の根強い日本人信者に響きやすかったことだろう。清平祈祷院は，韓国のキリスト教系民族宗教と日本の宗教文化の伝統とを取り入れ，習合させた，きわめてユニークな場なのである。

＊この論文は 2016 年 6 月 24 日に韓国学中央研究院で開催された国際シンポジウム「第 1 回アジア宗教研究フォーラム」で発表した韓国語原稿を翻訳・加筆修正したものである。

謝辞

この学術研究は 2015 年韓国学中央研究院の海外韓国学支援事業の支援を受けて作成された。（AKR-2015-25）記して感謝する。

註

(1) 世界平和統一家庭連合の旧称は世界基督教統一神霊協会である。ここでは教団名を韓国で一般的に使用されている「統一教」という略称を用いる。

(2) 李進龜によればこのことが 「宗教の仮面を被った政治集団」「営利追求を目的とした経済組織」「淫乱異端集団」などの批判を買っている一方,「韓国のイメージを海外に伝播するのに貢献した」「世界中の人を韓国の前に跪かせた」と肯定的に捉えられるケースもあるという。[李 2000：5]

(3) [ジョージ 1993：136]

(4) [ジョージ 1993：136]

(5) 60 年代後半から 70 年代前半にかけて大学における公開討論会やクリスチャンアカデミー主催のキリスト教神学者と統一教幹部の対話集会などが開かれた。

(6) 各教派の総会次元で統一教は「キリスト教を仮装した邪似非宗教集団」であると決議し,「統一教に対する韓国キリスト教対策協議会」「文鮮明集団に対する韓国教会対策委員会」「統一教に対する汎教団指導者協議会」などが設置された。

(7) 統一教関連の雑誌や新聞への投稿禁止，統一教参加の企業の物品不買運動の展開，統一教と関わりのあったキリスト教関係者の徹底調査と懲戒が挙げられる。

(8) 韓国キリスト教統一教対策協議会という組織が作られるほどであった。

(9) 『み言葉選集』は 1955 年から現在まで刊行されており，その数は 400 冊を超える。最近は今まで教祖が語った「み言葉」を主題別に編集したものが随時刊行されている。

(10) [櫻井・中西 2010：67]

(11) [姜 2007：33]

(12) [櫻井・中西 2010：66]

(13) 正式名称は「天宙清平祈祷苑」であるが信徒は「清平祈祷院」と呼ぶため本論文ではそれに従う。

(14) [櫻井・中西 2010：66]

(15) [ソン 2000][クママル 2007]など。

(16) [姜 2007][櫻井・中西 2010]

(17) [Thomas 1994][櫻井 1998]

(18) [清平祈祷院大母様み言葉編集部 2007：19]

(19) [姜 2007：20／チョ 2006：84-119]

(20) 統一教内での解怨の儀礼一般の名称。

(21) [清平祈祷院大母様み言葉編集部 2000：26]

(22) 他に地縁のある人間にも取りつくという事例もあるようだが，従軍慰安婦の恨霊のように外国の見ず知らずの敵対者の子孫に祟るということは伝統宗教の怨霊観としてはない世界である。

(23) 日帝時代にあった実話の例をあげると，日本軍に連行された慰安婦はその生活に耐え切れずに逃げ出した。彼女らはか弱い女性だったので，まもなく捕まってしまったのだが，日本の

軍人はありとあらゆる蛮行を行った。多くの慰安婦を呼んできて立たせたその前で「おまえらも逃げたらこのような目に遭うのだ」と，首に綱を掛け，車につないで早い速度で引きずった。彼女らは血まみれになり，骨が折れて死んでいったのである。（中略）悪霊のあがく姿には本当に驚くばかりである。全く想像もできないことが起こるのである。食口の腹中にいる胎児のあちこちをつかんで弄んでいる場合もある。ある食口の胎児の脚を悪霊がしっかりとつかんで離すまいとしているのだが，そのようにして生まれた赤ん坊は歩くことができなくなる。悪霊たちが胎児の中に入って，脳をつかむならば，生まれてきた子供に脳性マヒや自閉症の症状が現れるなど，様々な問題がおこることになるのである。霊を分立しないことによって起こるこれらの現象は，言葉では表すことができないほど悲惨なものである。食口はもちろん，世の中の人たちに清平役事を理解させなければならない。[清平祈祷院大母様み言葉編集部　2000：67]

(24) [櫻井・中西　2010：72]

(25) 「再臨復活」という。

(26) [世界基督教統一神霊教伝道教育局：15]

(27) [天宙清平修練苑 2003]や[清平修練院（編）1999] などの証集。

(28) [世界基督教統一神霊教伝道教育局：38-39]

(29) [世界基督教統一神霊教伝道教育局：41-43]

(30) [櫻井 1998：95]

(31) [櫻井 1998：81]

(32) [櫻井 1998：90]

(33) [Thomas：407]

(34) http://ameblo.jp/motojuku103/entry-11390687675.html（確認日 2016 年 4 月 25 日）

(35) 巫俗のクッにおいて参加者全員が祭壇に並び神々への祈願成就を念じて焼紙をしたりする。

(36) [Thomas：421]「星まつり」には「先祖供養の護摩」と「祈願の護摩」の 2 種類がありそれを大々的に護摩焚をする。

(37) [天宙清平修錬苑日本事務局 2005：8]

参考文献

・姜敦求，「世界平和統一家庭連合の現在と未来」(韓国学中央研究院宗教研究所編『韓国宗教教団研究二』韓国学中央研究院，2007)，11 - 49 頁。

・クママルイチロウ「天宙清平修練苑の治療の特徴に関する研究」，清心神学大学院碩士論文，2007。

・櫻井義秀「新宗教教団の形成と地域社会との葛藤」（日本宗教学会『宗教研究』第 72 号 317 第 2，1998)，75-99 頁。

・櫻井義秀・中西尋子『統一教会　日本宣教の戦略と韓日祝福』，北海道大学出版会，2010。

・ソン・ジュヒョン「成約時代の天宙清平修練苑の歴史と新約時代イエスキリストの神癒恩赦の比較考察」（鮮文神学大学『鮮文大学神学大学校』vol.1，2000)，1 - 41 頁。

・李進龜，「韓国新宗教史の立場から見た統一教」（韓国基督教歴史研究所『韓国基督教歴史研究所消息』58 号 3 月号，2000），3-12 頁。
・ジョージ・D・クリサイディス『統一教会の現象学的考察』新評社，1993。
・清平祈祷院大母様み言葉編集部『成約時代の清平役事と祝福家庭の道』成和出版社，2000。
・チョ・ソンシク，「大解剖 250 枚　統一教王国」（『月刊東亜』通 564 号 9 月号，2006），84 - 119 頁。
・世界基督教統一神霊教伝道教育局『先祖解怨と祈願書の恩恵』光言社，2009。
・天宙清平修練苑『真の愛の奇跡』成和出版社，2003。
・清平修練院（編）『新しき新生命』成和出版社，1999。
・Thomas H. Pearce, “Tenchi Seikyō A Messaianic Buddhist Cult” (*Japanese Journal of Religious studies* 21/4, 1994), pp.407-424.
・新谷静江『弥勒の救いが始まった』星雲社，1997。
・天宙清平修錬苑日本事務局『清平修練院機関誌　清心』vol.11，清平修練院，2005。
・古田富建「韓国キリスト教系新宗教の祈祷院文化：清平祈祷院を通じてみる統一教の巫俗化」（韓国朝鮮文化研究会『韓国朝鮮の文化と社会』，風響社，2015），139 - 170 頁。
・「霊感商法から天地正教へ，そして清平へ 2」『まっちゃんのブログ』
http://ameblo.jp/motojuku103/entry-11390687675.html（最終閲覧日 2016 年 4 月 25 日）。